

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690300054		
法人名	仁恵会		
事業所名	グループホーム新町御池 雪		
所在地	京都市中京区新町通り姉小路下る町頭町92番地		
自己評価作成日	平成28年6月14日	評価結果市町村受理日	平成28年10月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyouvoCd=2690300054-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年7月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市内の中心部にあり、交通の便がととても良いため、ご家族の面会が多いです。また月に数回のレクリエーションを行う場合など、積極的な関わりを行い、常に目的意識を持って仕事をするようにしています。そうすることにより、自分で考えて行動する習慣を見つけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「徹底的に相手の立場に立つ」と掲げたホームの年度目標を基にユニット毎にも目標を掲げ、個別性を重視した支援に取り組んでいます。利用者の思いを深く知る取り組みでは言葉にならない声に耳を傾け、ケア会議で検討し思いに添った暮らしに繋がるよう取り組んでいます。また職員には委員会活動や担当があり、認知症理解に向けた委員会では特徴的な症状等を記録に残して共有し、レクリエーションの充実を図る委員会では実施が困難だった琵琶湖観光を実現する等、利用者のより良い暮らしに活かされると共に職員のスキルアップや積極性に繋がっています。近隣に商店街や神社仏閣等がある好立地を活かし、散歩や買い物等に積極的に出かける機会を作ったり、認知症について相談を受ける事もあり、地域に開かれたホームとなるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に地域ケアに努めるが含まれている。職員会議などで、職員が周知できるようにし、どのようにすれば実現できるかを話あっている。	「徹底的に相手の立場に立つ」と掲げたホームの年度目標を基に、ユニット毎にも其々の特性を活かした年度目標を決めフロアに掲示しています。今年度ホーム全体で行っている利用者を深く知る取り組みと合わせ、個別性を大切に思いに添った暮らしを考え実践に繋げています。毎年目標の見直しや実施状況を振り返り確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、職員と一緒に地域の行事に参加するようにしている。また近隣の商店街に利用者と一緒に買い物に行くようにして、日常的に交流している。	町内会に加入し地域の祇園祭や運動会、防災訓練に利用者と共に参加しています。近隣に商店街や神社仏閣などがあり、日々の暮らしの中で立地の良さを活かし、散歩や日常の買い物など積極的にかけるようにしています。また、近隣の方から認知症について相談を受けることもあり、地域の方の理解や交流が深まるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方が相談に来やすいように、ポスターを玄関前に張り出している。来られた時は相談内容により、周知した職員が認知症介護に対するアドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス提供上の出来事を、いろいろな方面からのアドバイスを頂き、介護に生かし、実践するようにしている。新しい情報を包括支援センターから得るようにしている。	会議は家族や老人福祉委員、民生委員、地域包括支援センター職員に加え、他施設管理者等の参加を得て隔月に開催し、ユニット毎に利用者状況や活動などを写真を見てもらいながら報告し意見交換をしています。意見を受け家族の面会時の対応について話し合い改善するなどサービスに活かしています。また消防署員に来てもらい災害時の対応について話を聞く等工夫をしながら開催しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば、相談するようにしている。また区役所主催の地域ケア会議などにも参加するようにして協力関係を築いている。運営推進会議の議事録は必ず報告している。	月に数回は役所に出向く機会があり、運営推進会議録を窓口に出したり、分からないことがあれば随時相談しています。市の相談員の受け入れの他、2ヶ月に1度行われる区役所主催の地域ケア会議にも参加しており、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や精神的拘束など、具体例をあげ、正しく理解できるように研修などを行っている。安全確保のために、外への扉は家族の了解の元、施錠している。	入職時研修や外部研修などで身体拘束をはじめ人権擁護等を受講し、伝達研修を行い職員に周知しています。ユニット出入り口は職員の体制により一時的に施錠する事がありますが、危険な時以外は利用者の行動を止めず見守り付き添っています。転倒予防のため家族の了解の下、椅子に鈴を付けている利用者があり、職員間で人権について話す機会を持ったり必要性を検討しています。	

グループホーム新町御池(雪)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修などがあれば、積極的に参加している。また見てみぬふりがないように、施設内の風とおしをよくする、職員同士が意見を言う機会や場所をつくるようにし、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用されている方もある為、具体例を挙げながら、学ぶ機会を得るようにしている。後見人さんからお話を伺ったりする事もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	数回に分けて説明をする、わかり易い言葉を使い説明するなどしながら、理解が出来ているか確認しながら契約している。複数の家族に来てもらい説明を受けてもらうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市より介護相談員の派遣を要請し、外部者へ本人及び家族の意見を聞き取るようにしてもらっている。またその時でた意見を報告書としてあげ、運営に反映している。	家族の面会時や運営推進会議、年に1度の家族会の他、アンケート調査を行い意見や要望を聞いています。意見を受けて面会時にゆっくり写真を見られるよう居室にアルバムを準備したり、全家族に相談し室内履きの洗い替えを用意してもらう等、個別の意見も全体の意見として捉えユニット会議で話し合い意見を反映した取り組みに繋がっています。また介護相談員を受け入れ利用者の声を聴いてもらっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の中で意見を聞いたり、個別面談を行い、意見を聞き、リーダー会議などで報告し反映させるようにしている。	職員の意見は月に1度のユニット会議や日々の業務の中で聞いています。職員が役割意識をもって考えられるようレクリエーションなどの委員会活動や様々な係を決めており、シフトの調整や夜勤時の休憩の取り方、物品の購入など多くの意見を取り入れています。またリーダーやサブリーダーが職員の様子に気を配り、仕事や個別の問題も含めて随時声をかけ相談に乗っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の不利にならないように、常に注意している。やりがいがあるように、役割を持って仕事ができる環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時期や経験年数により合った外部・内部研修をうけ、知識を増やしていく機会を作るようにしている。資格もとれるようにしている。		

グループホーム新町御池(雪)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	懇親会や勉強会などに開催し関しては、積極的に参加するように促し、職員と意見交換の場を提供するようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何度か面接を行うようにし、信頼関係ができるようにしている。また入所後はゆっくり話を聞く機会を持つようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安に思われている事を介護員だけでなく、主任やケアマネージャなど色々な立場の人間が、話を聞くようにしている。入所後は担当職員を配置し、気軽に声が掛けられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅での生活を担当ケアマネージャーや在宅スタッフに聞き取り、必要な支援を導入できているか検討した上で、入所を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事は自分でしてもらい、自立した生活を送る環境を作るようにしている。希望・要望などもしっかり聞き取り、実施できるように話し合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を共有する事で、共に支える気持ちを持って行くようにしている。一緒に外出するなどして、入所中の様子を知ってもらうようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人が来やすい環境を作る事で、これまでの人間関係が継続できるようにしている。また懐かしい場所にドライブに行ったり、買い物に行く事もある。	友人や知人の来訪時にはゆっくりできるよう配慮したり、バーベキューや祇園祭等と一緒に見学してもらっています。ドライブを兼ねて百貨店や入所していた施設等に出かけたり、家族の協力を得て会長を務めていた会に毎月出席する方や理美容院通いの他、法事等に出かける方もおり、事前の段取りや準備等を支援し関係が継続できるよう努めています。	

グループホーム新町御池(雪)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂での配置や話題の提供により、自然に輪の中に入れるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設や入院中の職員に様子を聞き、困られている様子がないように援助している。家族にも定期的に連絡を取り、今後について相談している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1でゆっくりかかわるようにしている。言葉だけでなく、行動や表情からも把握するように努めている。家族からも生活歴や趣味・嗜好などを聞き取り、御本人が大事にしているものを大切にしていこうにしている。	入居にあたって自宅や入院先を訪問したり、見学等の際に本人や家族から暮らしへの希望や生活歴、趣味等を聞き、アセスメントにまとめ利用者の把握に努めています。今年度は利用者の思いを深く知ることに入れ、日々の様子や職員が汲み取った思いを記録に残し共有しています。利用者に合わせて必要な様式を選択し、ケア会議で意見を出し合い、言葉にならない思いも探りながら把握できるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から聞いたり、自宅で面接したり、ケアマネから情報を得ることで、経過の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の申し送りにより、一日の過ごし方を共有し、穏やかに過せるように援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や家族と面談により、介護計画を作成するようにしている。担当職員やユニット職員にも意見を聞き、柔軟に取り入れるようにしている。	利用者の思いや家族の意向、職員の気づきや意見等を下に介護計画を作成しています。3ヶ月毎に計画の実施状況をモニタリングし、半年でサービス内容の確認を行い、1年後に家族の参加を得てサービス担当者会議を開き、必要な支援を共に考え介護計画を見直しています。見直しの際は再アセスメントを行い現状を把握し、医師の意見がある場合は反映させています。また記録の様式を改善し実施状況を日々確認できるようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録のほか、センター方式の導入などにより、気づきをさらに深められるようにしている。		

グループホーム新町御池(雪)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	規則にとらわれず、必要な事があれば前例にとらわれずに対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の情報を民生委員さんや老人福祉委員・近隣の方の話を聞き、利用者にとって必要な資源であれば、積極的に活用するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医への連絡をとりながら、他の病院や医師の受診を希望された場合、積極的に情報を提供して、受診がうけられるようにしている。通院などの介助も行っている。	入居時に希望のかかりつけ医を継続できることを伝え、現在は全利用者が24時間相談ができる協力医の往診を月に2回受けています。専門医を継続し家族と受診している方は必要に応じて協力医の情報を伝えています。急な体調の変化時などは、随時の往診を受けたり、訪問看護師や併設施設の看護師に相談しながら対応しています。また年に1度歯科検診を受けてもらい必要な方は治療を受けています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に情報提供を密に行い、適切なアドバイスを受けられるように、日々コミュニケーションをとるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や相談員、看護師長などと連絡をとり、施設での状況報告を行う。入院中は家族との連絡や面会などを行い、現在の状況と今後について相談する機会を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より、終末期についてお話をしている。またケアプラン作成時や面会時・入院時など機会を見て、説明している。	入居時に重要事項説明書の中でホームで対応できることやできないことを説明し、体調が変化した時は改めて指針を基に説明しています。これまでに家族の協力を得ながら終末期に近い状況の支援を経験しています。職員は医師から状況の説明を受けたり、管理者にいつでも連絡をとれるなど職員の安心に向けた体制を取り、ホームでできる支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを掲示し、日々目につくようにしている。また救急講習をうけ、実践にも役立つように復習するようにしている。		

グループホーム新町御池(雪)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上の消防訓練を行い、全ての職員が訓練に参加できるようにしている。また他の災害についてもシュミレーションを行い、訓練している。	年に2回昼夜を想定し実施している訓練の内、1度は消防署の指導の下、町内に回覧して見学などの参加を得て実施しています。訓練では通報や避難誘導、消火器の使い方などを行うと共に水や食糧などを備蓄し日付管理を行っています。運営推進会議の際に消防署員に来てもらい災害時対応の話を聞くこともあります。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時には人格を尊重するように研修を行っている。プライバシー保護のため、トイレ誘導時などは他の利用者にはわからないように声をかけるなどの配慮を行っている。	法人による接遇マナーや人権に関する研修が年に数回行われ、基本的には全職員が参加し一人ひとりを尊重した対応について周知しています。日常的には丁寧な言葉かけや入室時に了解を得ることなどを守り、排せつ介助時の声のかけ方やトイレのドアを必ず閉めることなどにも留意しています。不適切な対応が見られた場合は職員間でも注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側から結論を出すのではなく、利用者からの意見がでてくるように、ゆっくり待つように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体調をみながら、過ごし方を相談している。一人一人のペースや希望で行えるように支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの服を選んでもらい、着るようにしている。色を合わせたりして、おしゃれを楽しむようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お米をといでもらう、野菜の皮むき、切るなどの作業を職員と一緒にしている。食後は茶碗拭きしてもらっているようにしている。	業者の立てた献立に沿って食材が届き、利用者は下拵えなどに携わり、小鉢を一品増やすなどしながら食事を作っています。時には食材を止め利用者の好きなにぎり寿司や散らし寿司、はも料理を作ったり、月に1度は外食レクとしてランチや少人数で喫茶店やカフェなどに出かけています。食事に集中できるよう落ち着いた音楽を流し、利用者と共に職員も食卓に着き会話を楽しみながら食事を摂っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導の元、一人一人の栄養状態を管理し、嚥下能力などを考慮しながら、必要な栄養量を確保できるようにしている。水分量については摂取量を確認し、少ない時はゼリーを食べてもらうようにしている。		

グループホーム新町御池(雪)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きの声かけを行い、出来ない方には職員が付き添い行っている。定期的には歯科医や衛生士にも見てもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表をつける事で排泄パターンを把握し、オムツの使用を減らすようにしている。オムツ内での排泄ではなく、トイレでの排泄を行っている。	排せつ記録を参考に個々の体調やタイミングを見ながらトイレで排泄ができるよう支援しています。本人の意志や不安な気持ちを尊重し、其々に適した排せつ用品や支援の方法を検討しながら支援し、紙パンツから布の下着に改善した方もいます。布の下着が一番良いとの考えの下、失敗があっても安易に紙パンツなどに変更せず支援方法を検討し、布の下着で長く過ごせるよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	足上げ体操やボール体操などを取り入れ、腹筋を使い便秘解消につながるようにしている。野菜料理の種類を増やしたり、水分をしっかりとるようになっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入りたい時間を聞き、希望の時に入れるようにしている。拒否のある人については、時間や曜日、職員を変えて入れるようにしている。	入浴は基本的には週に2回は入れるよう支援し日中の時間帯で声をかけ、順番の変更など希望を聞きながら入ってもらっています。季節の柚子湯や菖蒲湯、好みの石鹸やシャンプーを使用したり、入浴好きな方は希望があれば回数を増やすことも可能です。また湯船に入ることが困難な方はシャワーや足浴で温まれるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースに合わせての、介助をおこなうようにしている。寝具や空調の調整により、心地よい眠りが確保できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のリストを作り、薬の内容の理解を全職員ができるようにしている。体調の変化があった時は速やかに主治医に連絡が取れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の希望を把握し、それぞれに合った役割で生活できるように支援している。一ヶ月に一回は外出し、楽しみを持って生活できるようにしている。		

グループホーム新町御池(雪)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日近隣のスーパーに出かけるようにしている。また家族や職員と一緒に外食に行ったり、仕事場に行く利用者もある。	日課となっている散歩では近隣の神社へのお参りや、商店街などに買い物に行っています。桜の花見や紅葉狩りなどのドライブ、動物園や水族館の他、ミンガン船で琵琶湖観光など、時には家族にも声をかけ一緒に外出行事を楽しんでいます。また地域行事や少人数で喫茶に行ったり、玄関先のベンチでプランターの世話や気分転換を図り外出や外気に触れる機会を多く作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のできる範囲で持たれている方はある。できない利用者については、買い物時に支払いを一緒にするなどの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や寒中見舞いなど家族にあてた手紙に一言書き添えてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事や就寝時など生活の場面にあった温度や光を調整するようにしている。不快な音はなるべく出さないように、注意している。	共用空間は利用者と一緒に作成した七夕飾りなどを飾り季節感を出したり、行事の写真や利用者の書などの作品が飾られています。ソファを置き、利用者同士の相性を考えながら、テーブルの向きを随時変更し心地よく過ごせるよう配慮しています。また移動に車いすを使用する方も移動以外は寛げるよう椅子に座り替えてもらっています。また日々の掃除や温湿度の管理を行い快適に過ごせる空間となるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットのところどころにソファを置いたり、お部屋に椅子などを配置して、思い思いに過ごせるようにしている。二人がけのソファに座り、話が弾む事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれ表札をかけて自分の部屋と認識してもらうようにしている。在宅時に使用していた家具を持ち込み、思い出の写真などを飾るなどして、居心地良く暮らせるようにしている。	居室には馴染みの家具や使い慣れた物、大切にしている物を持って来てもらうよう話し、多くの着物を入れた和ダンスや座卓、使用していた座布団、冷蔵庫などを持ち込み、過ごしやすいよう家族と相談し配置しています。また大切な仏壇や家族の写真を身近に置いたり、自身で描いた絵などを飾り、その人らしい居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所をわかりやすくしたり、手すりをつけるなどして、自立歩行を促し、安全に生活できるようにしている。		